

大学・高専機能強化支援事業（支援1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和6年度	学校コード	F113310103082	設置等組織名	総合情報学部（データサイエンス学科、デジタルイノベーション学科）
大学名	昭和女子大学	設置区分	私立	事業計画名	昭和女子大学 新学部設置計画
学校種	大学	都道府県	東京		

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。

当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1	1-① 令和6年4月～ 新学部事務室（準備室）設置 1-② 令和6年4月～ 教育課程等検討のための新学部準備委員会の開催 1-③ 令和6年4月～ 授業等連携先企業・団体・協定校「選定」のための打ち合わせ 1-④ 令和6年8月～ 授業等連携先企業・団体・協定校との連携内容に関する打ち合わせ 1-⑤ 令和6年8月～ 各種プログラム開発のための打ち合わせ（正課外プログラム、資格、インターンシップ等） 1-⑥ 令和6年8月～ 高大連携の取り組み（高校訪問、高校教育を招いての意見交換会等） 1-⑦ 令和6年5月～ 事業実施のための高校生対象ニーズ調査の設計、実施、分析の委託（調査実施：8月） 1-⑧ 令和6年5月～ 事業実施後の広報に向けたホームページの設計、制作、開設の委託（開設時期：8月） 1-⑨ 令和6年5月～ 事業実施後の広報に向けたパンフレット・リーフレット制作の委託（配布時期：8月） 1-⑩ 令和6年12月～ 新学部開設（認可申請提出後）の広報に向けたホームページの設計、制作、開設の委託（開設時期：3月） 1-⑪ 令和6年12月～ 新学部開設（認可申請提出後）の広報に向けたパンフレット・リーフレット制作の委託（配布時期：3月）	1-① 令和6年4月～ 新学部設置に関する事務業務は、理事長・総長・学長室にて実施 1-② 令和6年4月～ 教育課程等検討のための新学部 設置 準備委員会の開催 1-③ 令和6年4月～ 授業等連携先企業・団体・協定校「選定」のための打ち合わせ 1-④ 令和6年8月～ 授業等連携先企業・団体・協定校との連携内容に関する打ち合わせ 1-⑤ 令和6年8月～ 各種プログラム開発のための打ち合わせ（正課外プログラム、資格、インターンシップ等） 1-⑥ 令和6年8月～ 高大連携の取り組み（高校訪問、高校教育を招いての意見交換会等） 1-⑦ 令和6年5月～ 事業実施のための高校生対象ニーズ調査の設計、実施、分析の委託（調査実施：8月） 1-⑧ 令和6年5月～ 事業実施後の広報に向けたホームページの設計、制作、開設の委託（開設時期：8月） 1-⑨ 令和6年5月～ 事業実施後の広報に向けたパンフレット・リーフレット制作の委託（配布時期：8月） 1-⑩ 令和6年12月～ 新学部開設（認可申請提出後）の広報に向けたホームページの設計、制作、開設の委託（開設時期：3月） 1-⑪ 令和6年12月～ 新学部開設（認可申請提出後）の広報に向けたパンフレット・リーフレット制作の委託（配布時期：3月） 1-⑫ 令和6年12月～ 新学部広告制作・掲載(R6.11.25承認) 【改組内容】 ・令和6年 学部名を総合情報科学部から総合情報学部に変更して、設置認可申請を行った。 ・令和6年 総合情報学部（データサイエンス学科、デジタルイノベーション学科）について、学位分野を工学関係×経済学関係から工学関係に変更して、設置認可申請を行った。 ・令和6年 公募申請時は未定であった入学定員30名を減員する学部学科について検討し、グローバルビジネス学部ビジネスデザイン学科10名、人間文化学部歴史文化学科10名、食健康科学部食安全マネジメント学科10名とした。令和7年10月に入学定員の減員に伴う学則変更届出を行う予定である。	R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
				○年度自己評価
フェーズ2 前倒し			○年度自己評価	リストから選択してください。
認可申請又は届出	令和7年3月 総合情報科学部（仮称）の設置認可申請予定	令和7年3月 総合情報学部（データサイエンス学科、デジタルイノベーション学科） 設置認可申請		
フェーズ1 後倒し	1-⑫ 令和7年4月～ 新学部事務室（準備室）（認可申請提出後も継続） 1-⑬ 令和7年4月～ 教育課程等検討のための新学部準備委員会の開催（認可申請提出後も継続） 1-⑭ 令和7年4月～ 授業等連携先企業・団体・協定校との連携内容に関する打ち合わせ（認可申請提出後も継続） 1-⑮ 令和7年4月～ 各種プログラム開発のための打ち合わせ（正課外プログラム、資格、インターンシップ等）（認可申請提出後も継続） 1-⑯ 令和7年4月～ 高大連携の取り組み（高校訪問、出張授業、高校教員を招いての意見交換等）（認可申請提出後も継続） 1-⑰ 令和7年5月～ 新学部開設（認可後）の広報に向けたホームページの更新（公開時期：9月） 1-⑱ 令和7年5月～ 新学部開設（認可後）の広報に向けたパンフレット・リーフレット制作（配布時期：9月） 1-⑲ 令和7年9月～ 企業・団体・協定校等連携先との協議会の開催 1-⑳ 令和7年10月～ 新学部開設記念シンポジウムの開催（1回） 1-㉑ 令和7年10月～ 新学部広告制作・掲載		○年度自己評価	リストから選択してください。
	フェーズ2	2-① 令和7年9月～ 新学部のため10号館改修（令和9年3月まで継続） 2-② 令和7年10月～ 新学部のため新校舎建設（令和10年3月まで継続） 2-③ 令和7年10月～ 新学部のための施設設備整備（令和10年3月まで継続）		○年度自己評価
開設又は定員増	令和8年4月 総合情報科学部（仮称）開設予定			
フェーズ2 後倒し	2-④ 令和7年から継続 新学部のため10号館改修（令和9年3月まで継続） 2-⑤ 令和7年から継続 新学部のため新校舎建設（令和10年3月まで継続） 2-⑥ 令和7年から継続 新学部のための施設設備整備（令和10年3月まで継続）		○年度自己評価	リストから選択してください。
	フェーズ3	3-① 令和8年4月～学部事務室の設置 3-② 令和8年4月～連携先との協議会の開催（毎年） 3-③ 令和8年4月～授業等連携先企業・団体・協定校との打ち合わせ（毎年） 3-④ 令和8年4月～新学部ホームページ制作（開設後～完成年度） 3-⑤ 令和8年4月～新学部パンフレット、リーフレット製作（開設後～完成年度） 3-⑥ 令和8年4月～新学部広告製作（開設後～完成年度） 3-⑦ 令和8年4月～高大連携の取り組み（高校訪問、出張授業）（開設後～完成年度） 3-⑧ 令和8年8月～新学部開設記念シンポジウムの開催（毎年） 3-⑨ 令和8年12月～教員向けFD講演会の開催（毎年） 3-⑩ 令和8年12月～事業成果報告会の開催（大学と提携企業との合同実施）（毎年） 3-⑪ 令和8年時期不明 大学改革支援・学位授与機構主催 機能強化会議の参加（毎年）		○年度自己評価
			○年度自己評価	リストから選択してください。
				○年度自己評価
定員減又は学部等の廃止	令和7年9月 既設学科定員減(30名)の届出予定			

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	昭和女子大学
-------------	-------	-----	--------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。	
	確認を受けている	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
	確認の対象に該当しない	<input type="checkbox"/> チェック
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。	
	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）	令和6年度中に、協定校である海外大学のカリキュラムと、新学部カリキュラムの連携可能性について調査・検討を行う予定であった。しかし、設置認可が下りるまでは新学部のカリキュラムや体制等に変更の可能性があるため、具体的な検討は設置認可後に行うこととした。
	計画通りに進んでいる	<input type="checkbox"/> チェック
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。	公募申請時点では、新学部の使用施設として、新校舎の建設及び既存校舎の改修を予定していたが、新校舎建設予定地の調整が難航したため、新校舎の建設を断念した。そのため、既存校舎の改修範囲を当初計画より拡充し、新学部用施設として整備することとした。（R7.3.3承認）
	計画通りに進んでいる	<input type="checkbox"/> チェック
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。	
	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。	
	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。	
	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。	
	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）	
	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。	
	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。	本学の外部資金獲得の平均額は117,157,000円、助成額の2.5%（25,069,975円）を上乗せした金額は、142,226,975円となる。 ※外部資金獲得額について、公募申請時には競争的研究費（科研費等）を含めず計上した数値を記載してしまっていたため、競争的研究費（科研費等）を含めた外部資金獲得額に修正する。
	計画通りに進んでいる	<input type="checkbox"/> チェック
⑫	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。	令和6年度中に、協定校である海外大学等と教育研究面での交流を協議する予定であった。しかし、設置認可が下りるまでは新学部のカリキュラムや体制等に変更の可能性があるため、具体的な検討は設置認可後に行うこととした。
	計画通りに進んでいる	<input type="checkbox"/> チェック
⑬	選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文部科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。	
	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
⑭	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	
	認定を受けておらず申請する意向もない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	昭和女子大学
-------------	-------	-----	--------

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- チェック a. 企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- チェック b. 関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- チェック c. 関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>a. 両学科について、DXを推進する企業やピープルアナリティクス&HRテクノロジー協会と連携し、実務家や当該分野研究者を講師として招き、データ活用の最新の状況や社会実装に関する授業を実施する予定である。また、同協会員企業等と連携したインターンシップやPBL型の授業科目、さらに他の産学官と連携したPBL型の授業科目を開講する。</p> <p>b. 両学科について、本学が相互協力協定を締結している「世田谷6大学コンソーシアム」の加盟大学や当分野に強みを持つ他大学と、2024年度中に協議を行う。</p> <p>c. 両学科について、本学と協定を結ぶ海外協定校の中から、特に工学部を持つ上海理工大学、大連理工科大学、ブルネイ工科大学、理工学部を有する上海交通大学、サビエンツァ・ローマ大学、マラヤ大学、クイーンズランド大学、アイルランド国立大学ダブリン校、ゲント大学、チェンマイ大学、マド大学、タマサート大学、ワルシャワ大学、トリノ大学、ガジャマダ大学、西江大学、マサチューセッツ州立大学ボストン校等から交換留学学生の受入検討を始める。両学科の授業は日本語をベースとして行われるため、日本語学科のある個別の大学を中心に協議を進めていく。なお、上述の大学との学術及び教育交流について、2023年度は派遣学生23名、受入学生21名、短期派遣85名、短期研究者受入4名の実績がある。</p>	<p>a. ピープルアナリティクス&HRテクノロジー協会の方を講師として招き、両学科の専門科目である「ピープル・アナリティクス」「ピープル・アナリティクス（ケーススタディ）」を開講予定である。これらの授業では、統計学、機械学習の技術を用いて人事データを分析し、人事管理や人材育成への活用方法を学ぶ。また、企業等と連携したインターンシップやPBLについて、検討を開始し、現在は問い合わせ・提案を行う企業の選定段階にある。</p> <p>b. データサイエンス学部を有する武蔵野大学と、連携協定を令和6年5月から実施した。主な協議内容は、海外大学とのシンポジウムの共同開催やオンデマンド教材の相互利用などである。</p> <p>c. 令和6年度中に具体的な検討は行っていない。</p>	<p>c. 令和6年度中に、協定校である海外大学等と教育研究面での交流を協議する予定であった。しかし、設置認可が下りるまでは新学部のカリキュラムや体制等に変更の可能性があるため、具体的な検討は設置認可後に行うこととした。</p>

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- チェック a. 入学者選抜における科目の見直し
- チェック b. 女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- チェック c. 地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- チェック d. 社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
- チェック e. 留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>a. DS学科の入試については、「数学」を選択科目のひとつとするほか、大学入学共通テスト利用型試験において「数学」を選択科目に含めるか検討する。デジタルイノベーション学科の入試については、「数学」を選択科目のひとつとする。両学科ともに、大学入学共通テスト利用型試験において「情報」を入試科目に含めるかも検討する。</p> <p>b. 本学の入学者は女子学生である。その他、本学附属中学校・高等学校をはじめ、本学指定校および協定校との連携強化、また周辺地域の高等学校での説明会を実施する計画である。</p> <p>c. 両学科ともに、すでに本学が既存学部で実施している体験授業、出張授業の取り組みを実施する。また、本学附属中学校・高等学校（高等学校DX加速化推進事業へ申請中）との五修生制度（本学附属高等学校に在籍しながら、科目等履修により大学の授業を履修する制度）を導入する。本学附属中学校・高等学校はスーパーサイエンスコースを設けており、出張授業を行うにとどまらず、高等学校の授業計画への大学教員による助言や授業を行うなど、教育内容の高大接続を図る計画である。また、連携の有無を問わずに高校へ出張授業に赴く枠組みがある。今後、協定校を増やすため、新たな高校と連携を図る計画である。</p> <p>d. 両学科ともに、教育課程の一部を社会人向けにリスキリング・アップスキリングプログラムとして提供することを計画している。</p> <p>e. ②にて上述したとおり、本学は2024年度から日本語教育センターを開設し、「Showa Direct 4.5」プログラムを開始する。当プログラムを利用した留学生の受け入れを両学科ともに検討する。従来から受け入れている留学生に関しては、当センターの開設等により学内での日本語教育を充実させることが可能となったことから、より多くの留学生を受け入れる体制を整えている。</p>	<p>a. データサイエンス学科及びデジタルイノベーション学科の一般選抜入試において、「数学」を選択科目とした。また、共通テスト利用型において、データサイエンス学科は「数学」を、デジタルイノベーション学科は「情報」を選択可能科目に含めた。</p> <p>b. 本学附属高等学校での説明会及び附属高校生との座談会を実施した。また、オープンキャンパスでの学部・学科説明会を4回実施した。</p> <p>c. 令和7年3月、オープンキャンパスにて体験授業を実施した。また、高等学校(附属校含む)への体験授業、出張授業については、令和7年度中に実施できるよう準備を進めている。</p> <p>d. リカレントプログラムの実施について、三井住友海上火災保険株式会社と令和6年10月から検討を開始した。業務イノベーションや自己革新など実践的なプログラムを令和7年度に実施できるよう、現在準備を進めている。</p> <p>e. 令和6年4月、留学生の日本語スキル及びアカデミックスキル向上を目的とした日本語教育センターを開設した。また、両学科とも令和9年度から「Showa Direct 4.5」プログラムを開始予定である。</p>	

大学名	昭和女子大学
-----	--------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	
大区分	小区分	項目	単位																				
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	1526	1528																		
		入学者数	人	1567	1664																		
	その他の学期	入学定員	人	0	0																		
		入学者数	人	3																			
	入学者合計	入学定員(A)	人	1,526	1,528																		
		入学者数(B)	人	1,570	1,664																		
		入学定員充足率 (B/A)	倍	1.03	1.09																		
	収容定員等	収容定員(C)	人	6114	6111																		
		編入学定員	人	10	5																		
		在籍者数(D)	人	6453	6585																		
		編入学者数	人	0	0																		
			収容定員充足率 (D/C)	倍	1.06	1.08																	

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度
改組状況			選定-6年	選定-5年	選定-4年	選定-3年	選定-2年	選定													
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円		108,946	101,524	173,540	101,177	103,656	146,035													

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 (過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均) (E)	千円	104,709
本事業による助成金の額(F)	千円	1,002,799
フェーズ3の助成期間終了時まで達成する額 (E+F×2.5%)	千円	129,779

特記事項

※3.大学（学士課程）の状況>学生の入学・在籍状況>その他の学期>入学定員「0」は、若干名を意味している。（外国人留学生現地学校推薦入学考査）

外部資金の状況について、公募申請時には競争的研究費（科研費等）を含めず計上した数値を記載してしまっていたため、競争的研究費（科研費等）を含めた外部資金獲得額に修正する。